

新宮山産ぐるーぷ第2263回

行仙宿モノレール終点に足場、登山口に物置設置

◇実施日 11月8日(水)

晴

◇参加者 梶野照雄

1名

モノレール終点に立派な荷物置き場が出来上がったので、計画していたモノレール荷台横の足場を設置した。併せて登山口に物置を設けた。

モノレールの荷台が登山道より上の方になるので、荷物の積み下ろしに難がある。登山道の少し上に水平の足場を作り、荷台に手が届くようにした。足場の材料は、登山口に残っていた中前さんの足場板を利用、長さも荷台とほぼ同じ2mだった。



足場板を運ぶ

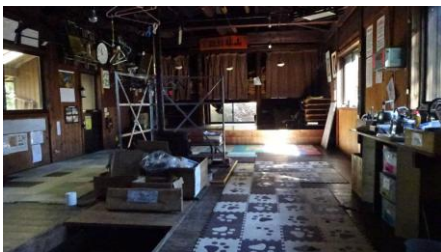


杭を打つ



足場完成

両側に杭を2本ずつ打ち込み、中央は切り株を利用して支えることにした。荷台から少し離れるが、切り株を利用するので、これ以上近づけるのは難しい。杭の一本は切り株の根が邪魔をして深く打ち込むことが出来なかったため、くい丸を打ち込み番線で締めて固定した。板を置き、水平になるよう4本の杭をノコで切る。角材をボルトで杭に取り付け、その角材に足場板をコーチスクリューで固定した。真ん中に切り株があるので板は安定している。



行仙宿は18℃

距離を測る

終点までは326m

足場の設置を終え、ザックとカンナ屑を持って小屋に向かう。玄関横の温度計は18℃を指していて、まだ暖かい日が続いている。昼食を済ませてモノレール終点に戻る。下りながら50mの巻尺で終点までの距離を測った。中の砦までが200m。モノレール終点までは326mだった。モノレールで登山口に降り、物置設置を始める。波板を寸法に切っていると奥の斜面から人が上がってきた。全部で4人だった。間伐をするそうで、白谷トンネルの工事や熊の

目撃情報など、5分ほど話をする。



波板を切る

フレームに取り付け

物置完成

4人が国道のほうへ歩いて行ったので作業再開。物置のフレームは先日組立済だったので、波板を寸法に切って取り付けるだけだが、切るのに時間がかかり終了まで1時間40分かかった。

物置の底は地上から10cmほど浮かして板を敷き詰めた。上蓋は丁番を付けず置くだけにしたので重しを置いた。

上からの雨は防ぐことが出来るが、壁面に隙間があるので若干の雨水が入ると思われる。濡れると都合が悪いものは置かない方が良さだろう。

帰り道に距離標388の小さな滝を確認する。この小さな滝は行仙宿水場のバロメーターで、この水量が少ないと行仙宿の水場は涸れていることが多く、水量が多いと水場は確実に流れている。

今日は下の水溜からオーバーフローしているので、行仙宿の水場は確実に流れているはずだ。

(記：梶野)

片付けて下山

距離標388の小さな滝、水場のバロメーター

行動タイム

09:50 補給路登山口→10:20 モノレール終点 11:40→11:47 行仙宿 12:57→13:27 モノレール終点→13:43 補給路登山口 15:44